

# りっぷる Ripple

エスコープ大阪機関紙

第240号

23. 1 .30

P2

・エスコープ大阪次世代生産者  
フォーラム パネルディスカッション

P3

・エスコープ大阪次世代生産者  
フォーラム 本音でトーク

P4

・「おおぜいの私」がつくるエスコープ大阪  
・理事会報告 ・おたよりネット  
・編集後記

## エスコープ大阪 次世代生産者フォーラム

2022年11月27日(日)

堺市産業振興センター  
(堺市北区)



# これまでの継承、これからのつながり

今はスーパーでも産地や生産者の情報が表示されていることがありますが、私たちは、以前から作る側の生産者と食べる側の私たちが直接顔を合わせて議論し、価格や規格なども決め、一緒に消費材を作ってきました。それはモノを作るだけでなく、それぞれ相手の暮らしの中に入り、一緒に運動をすすめることでした。時代

の流れとともに、生産者も組合員も、職員も世代が変わり、改めてこれからのつながりについて考え、新たな関係をスタートさせるために、次世代の生産者と、理事や各地域委員会メンバーや「コミュニティ」・「エスチャンネル」の登録者といった組合員と職員が一堂に会し、現状の課題共有や意見交換をおこないました。

### 基調講演

生活クラブ連合会 顧問  
伊藤 由理子さん

### 「生産する消費者運動」第2幕への挑戦 ローカルSDGsでめざす新たな産地提携



2015年頃から気候危機や人口(マンパワー)の減少などがすすみ、産地の課題を解決していかないと生産と消費の関係を持続するのが難しくなりました。そこで、生活

クラブでは、地域の生産者の横のつながり作りや、「生産する消費者運動」として消費者が生産にも関与することもさらにすすめてきました。

組合員の高齢化がすすみ、組合員の一人当たりの利用金額が少なくなっています。産地の地域社会も高齢化しており、気候危機もさらに進み、経営困難や離農がすすんでいます。これまでのように組合員は約束量を消費していただいとはいけなくなり、産地コミュニティの維持について考えたり、例えば農薬基準の緩和や代替について一緒に

取り組んでいくことが必要となっています。

生活クラブ連合会は第7次中期計画で、環境省が提唱している「つながるローカルSDGs」をすすめています。地域の資源をつないで、生産者と消費者のお互いの地域をつくり合う新たなステージを作り始めています。山形県庄内地域には、「平田牧場」や「JA庄内みどり」などの産地があります。そして、「庄内・遊佐太陽光発電所」もあり、その電気の収益で酒田市に「庄内自然エネルギー発電基金」を創設して地元還元しています。また、酒田市に移住者の住まいと地域の交流の拠点として「Tochito(とちと)」を建築し、地域づくりをすすめるにあたり、横につながることで、新たな人との出会い、新たなことができるようになりました。

地域の課題はその地域で考えないといけません。一緒に持続可能な食料のあり方を考え、それを社会に示しながら、次の社会、またその次の社会へ食料をつなぎ手渡していきたいと思います。ぜひ関西でもがんばってください。

## 持続可能な産地を維持するためには

生命思想や協同組合の価値などをもとに、新自由主義や市場原理主義への代替案の実践として生産者と共に運動を事業化してきました。しかし、生協も生産者も今はその考えや姿勢は生産物の中に留めがちに見えます。私たちが「約束量を食べる」だけで生産は維持できるのでしょうか。「生産し続けられる価格と消費し続けられる価格」、「持続できる生産基準と食べる側の基準」はどのようにきめてきたのでしょうか。少子高齢化と地域内協働の薄らぎは、消費地と生産地双方にとって大きな課題ですが、今まさに産地のコミュニティを守るかの瀬戸際に立っていると言っても過言ではありません。第一次産業の次世代を担う4名に登壇していただき意見交換しました。

### 課題解決に向けて生産者とともに描くビジョン

石川 今の産地の課題は何ですか。

松居 竜王町は8～9割が水田農業をしていますが、高齢化が進み、離農者が多く、担い手不足です。大規模農家に集約が進んでいるが、機械は高額で新規参入は難しい状況です。



松居 正樹さん

今野 菜食ファームはほとんどが家族経営です。19軒のうち40代以下が11軒ですが、80歳代の夫婦経営のところもあり、高齢化が進んでいます。

小林 農家の中での格差があり、大規模農家ばかり優遇されています。集落の先輩が、「子どもに農家を継がせられない」と言っていました。単収の上がるもので生活を立てていくしかなく、これまでのような地に足の着いた農業の形を守ることが難しくなっています。

山路 みかん産地でも高齢化、労働力不足が進むなか、下津で農業をしていた男性が「地域の農業が続かないと下津という町が活性しない」と若者を集め援農につなげる取り組みを始めています。

石川 5年先につなげるために今必要なことは何でしょうか。

小林 大切なのは「経済」と「人」。草取りなどの作業に耐えられなくなり、リタイヤする人たちの農地は直営農場などにして継ぐことはできますが、若い人は経験値が足りません。70代のスキルはすごい。マンパワー不足となっています。若い農家にとっては経済的なところが大事です。



小林 和香子さん

今野 ひとつ選べと言うなら「人」。5年後は今と同じ量を生産するのは難しい。子どもが後を継ぐのは大事ですが、地域を守っていく農業の人材として、一緒に働いていく農家を育てていかないといいません。

石津 5年後のその先のビジョンを描き、それに向けて一歩ずつ動くことが必要です。

### ●パネラー

JAグリーン近江竜王支店営農センター 松居 正樹さん

針江げんき米栽培グループ 石津 大輔さん

菜食ファーム 今野 裕光さん

株おきたま興農舎 小林 和香子さん

生活協同組合エスコープ大阪 常務理事 山路 登葉さん

### ●コーディネーター

生活協同組合エスコープ大阪 専務理事 石川 雅可年さん

### ●総評

生活クラブ事業連生活協同組合連合会顧問 伊藤 由理子さん

松居 一部の大規模農家だけでは賄いきれないので、集落での営農組合組織を作り、法人化して守っていくため、地域内でできる仕組み作りと後継者づくりをすすめていきたい。

石川 農薬、化学肥料を使わないという栽培体系では5年維持するのは難しいかもしれません。ヨーロッパやアメリカなどでは国が補助金もしっかり出して農業を守っているが、日本では農業者自身の責任とされています。消費者がいっしょにできることはありますか。

石津 米農家は補助金漬けだと言われるが、小麦や大豆と違い主食用米には直接的に補助金がつくわけではありません。

小林 未来に何を残したいのか選択しないといけません。お互いに食べものの向こう側を想像する力を養うことが必要だと思います。



石津 大輔さん

今野 双方の意見を出し合い、再生産価格を決めていきたいです。情勢に振り回されず、お互い納得できるように関係を構築していくことが必要です。



今野 裕光さん

石津 「楽しく」、「おいしく」が大事。人にシェアしたくなるし、興味が膨らみます。シンプルに農産物を楽しんでほしいです。

松居 消費者と生産者とのつながりをもっと密にし、お互い本音でしゃべり合える関係を作っていきたいと思います。

石川 50年前、豊共園の前山さんは「生産者は作る事ができるから食べるものに困らないが、消費者は作る事ができない。みなさんが困った時にみかんの木を切って野菜を植えます」と言われました。生産者も覚悟をもって独自の提携関係を築いてきました。

生協の得意分野であり、最大の武器は「人と人との関係づくり」です。組合員が若手生産者をつなぐ接着剤になり、生産者にとって組合員が「共有財産」となれば良いと思います。

伊藤 生産と消費の距離を近くして、向き合うだけでなく、並んで前を向いて共通のビジョンを持ち、言うべきことは社会に向けて一緒に言っていく。そういう活動につなげていくことが大事です。やれることはいろいろあるので議論をしていきましょう。

## ブース企画「本音でトーク」

# 総勢約130人、 本音でトークしました!!

### 1 お米ブース

上和田有機米生産組合 ▶ 青野 正幸さん、猪野 貴典さん  
 針江げんき米栽培グループ  
 ▶ 水田 正彦さん、石津 大輔さん、三宅 進さん、増田 孝一さん  
 竜王町稲作経営者研究会 ▶ 園田 哲也さん、松居 正樹さん

「お米を選ぶ時の決め手は何ですか?」という生産者からの質問に、「健康のことを考えて選ぶ」「料理に合わせて使い分ける」などと組合員から回答があり、生産者は熱心に聞いていました。高齢化や離農が増え、農家が大規模化している産地の現状をJA職員から聞きましたが、一方で米と果樹を栽培することで収入が安定している「上和田有機米生産組合」からは、世代交代ができて



いるという報告を聞くことができました。

### 2 果物ブース

御牧ヶ原林檎農場 ▶ 柏木 保志さん、柏木 洸斗さん  
 (有)王隠堂農園 ▶ 辻田 親一さん、西本 大介さん  
 (株)おきたま興農舎 ▶ 大野 美千代さん、小林 和香子さん

果物ブースでは、気候危機で作物が年々作りにくくなっているという話が「(株)おきたま興農舎」から出ました。20代の若手りんご生産者からは、産地に同年代の生産者がいないことを知りました。柿の生産日本一の産地の「(有)王隠堂農園」からは、「私たちは日本一柿を廃棄している生産者でもあります。規格外などでこれまで廃棄してきた柿を、農家の収入につなげられる取り組み



を組合員と共に今後考えていきたい」という提案がありました。

### 3 農産ブース

菜食ファーム ▶ 今野 正章さん、今野 裕光さん、山田 哲司さん、辻 晃佑さん、近岡 資明さん  
 (株)産直南島原 ▶ 伊藤 愁平さん、林田 斗真さん、竹下 魁渡さん  
 中井製茶 ▶ 中井 章洋さん、中井 章人さん

農産のブースでは、「農業を継ごうと思ったきっかけは何ですか?」という組合員からの質問に対し、「親孝行したいと思った」という回答が「(株)産直南島原」の20代の生産者からありました。またエスコープ大阪と長年付き合いがある「中井製茶」からは、「親が誇りを持って農業をする姿を見せることで、次の世代に農業を引き継いでいくことができる」というお話がありました。



### 4 水産・畜産ブース

(株)丸本 ▶ 神谷 浩二さん  
 オンダン農業協同組合 ▶ 嵐 亮介さん  
 三重県漁業協同組合連合会 ▶ 小林 洋之さん

水産・畜産のブースでは、水産資源の現状を知り、持続可能な水産業の取り組みとしての養殖魚に対する理解を深めることができました。また2021年から冷蔵供給になった国産鶏種「はりま」の手羽元がこれまでにない在庫を抱えており、「何とか組合員の皆さんに食べてもらいたい」との話を伺い、課題を共有しました。



今回の「エスコープ大阪次世代生産者フォーラム」では、産地コミュニティの維持など生産現場が抱える課題について、組合員は生産者から直接知ることができました。さまざまな気づきがあり、その気づきがエスコープ大阪の方針を組合員が考えたり、活動をすすめる原動力になると思いました。組合員が生産者に直接会う機会をたくさんつくっていききたいと思います。

「本音でトーク」報告者：消費・環境担当常務理事 山路 登葉



協同組合は共通の目的を持った人同士が自発的に集まって作る組織で、出資して組合員となって事業を利用し、運営に関わります。エスコープ大阪の組合員活動の要(かなめ)は「地域委員会」です。主な地域委員会の活動は、運動をすすめるための利用推進(これいいよ)や組合員拡大(一緒にやろう)です。その活動をもとにその他、課題解決のための運動に取り組んでいます。今回は「地域委員会」ができた経緯をお伝えします。

### ●創成期は「地区」単位で活発に組織の土台をつくりました

1970年に泉北生協(現エスコープ大阪)を設立してはじめは「班」をまとめる「ブロック」があり、班がひろがり、泉北ニュータウンに宮山台、三原台、茶山台、若松台、竹城台、高倉台、晴美台、榎塚台の8つの「地区」があるだけでした。1972年の第1回通常総代会の議案書には「各地区での運営を上手にすすめるために、地区の組合員懇談会をもちましよう」とあります。

1974年以降には原山台、庭代台、桃山台、赤坂台、鴨谷・城山台、河内長野、金山・金剛・狭山、大豆塚・辻久、東ヶ丘・唐国台(和泉市)、緑ヶ丘、和泉青葉台、泉州、助松団地と、「地区・地域」の言葉が出てきます。1978年の議案書には「新しい地域の組織化に取り組む」とあります。

10年で組合員約7,300人が約1,400の班を組織

し、40地区のうち25の地区が地区運営委員会をつくっています。その地区を基盤に、この頃は6つの課題別委員会(農園委員会、商品委員会、豚肉委員会、灯油委員会、ハイム委員会、牛乳実行委員会。のちに専門委員会。多い時で15以上の委員会があった)を持っていました。

### ●「地区」を連合して「地域」へ

1980年7月から隣接するいくつかの地区を「地域」として区分(泉ヶ丘、梅、光明池、河内長野、和泉、岸和田、その他)し、理事会後に「地域理事会」として地域ごとに地区理事が集まり理事会確認事項の具体化や、それぞれの地区の問題点を話し合っていました。

1983年から班の連合である「地区」を連合して、新たに「地域」を設定し、「地域委員会」を設け、地域住民との連帯を強め地域に根ざした共同購入活動の展望を具体化することをすすめました。理事の選出も「地区」から「地域」へ広げました。

これ以降、地域では25人班やストックポイント、1990年後半にはワーカーズ・コレクティブを地域毎にうみ出して、組合員の活動を地域に広げていきます。この頃から地域では「地域総会」を開催し、自ら運営する単位をそれぞれの生活の場である「地域」とし、その中で「地域委員会」を組織し、自主運営するようになりました。地域総会で地域委員会の活動を確認し合ってすすめていました。(つづく)



#### 【10月度決算報告】

- 供給高 2億2,275万円  
(前年同月比98.6%)
- 組合員数 18,988名(前月比+56名)
- 一人当たりの出資金 88,908円

#### 【11月の放射能検査結果】

11月は連合消費材704検体、関西消費材6検体の放射能検査を実施しました。エスコープ大阪供給分で生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

#### 【協議事項】

- ①「エスコープ大阪次世代生産者フォーラム」のふり返り
- ②次年度方針案
- ③第7次中期計画の協議の進め方、策定方法(体制)について
- ④2023年度総代会までのスケジュール
- ⑤各地域の担い手づくりの進捗状況の確認と意見交換
- ⑥新型コロナウイルス禍での「子育てひろば」開催について
- ⑦2022年度「よやくる温州みかん」取り組みまとめ
- ⑧中間監査への回答

#### 【報告承認事項】

- ①2023年度「エスコープ大阪まつり」の会場予約について

## おたよりネット



「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

238号「うまかけん みんなで食べてね！」を読んで

紙面モニター Yさん

飼料や子牛の価格が上がって大変な中、安心して食べられるよう基準に沿って育てたり、牛にストレスがかからないように健康管理をかかさず育てられていると知り、こだわりを感じました。「褐毛和種」という今では希少となった種を守っていくためにも、食べ続けるということが必要なのだと感じました。

238号「こんにちは! 近畿親生会です」を読んで

紙面モニター Uさん

普段あまりお漬物は食べないのですが、このような経緯があって作られたのかと知り、今度購入してみようと思いました。学校給食にも使われていると知り、うれしく思いました。「添加物を使わなくてもおいしい」ことが当たり前になってほしいなと思います。

キトリ

### Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●お名前

●地域名

●班・コース名

●組合員コード

理事會事務局行き

240号(2023.1.30)

#### 編集後記

コロナ禍のために、これまで生産者と直接会って話をするのがなかったという組合員もいたので、「エスコープ大阪次世代生産者フォーラム」はとても有意義な場となりました。生産者交流会や産地訪問など、生産者と組合員が直接話ができる場をたくさん作る事ができるように、コロナウイルスの早い収束を願っています。(Y)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co バックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

<https://s-osaka.seikatsuclub.coop/>

キトリ